



浦島太郎

再話 = 粟野 真紀子
挿絵 = 山中 桃子
監修 = NPO法人日本語多読研

浦島太郎

太郎は、ある日、亀を助けます。
お礼に、亀は太郎を海の中の竜宮
城に連れていきます。太郎は、そ
こで楽しい時間を過ごしますが
……。

とても有名な昔話です。

にほんごよむよむ文庫



これは、日本語を勉強している人のための「読みもの」シリーズで
す。4レベルに分かれていて、昔話、創作、名作、伝記などいろ
ろな話があります。レベルごとに言葉や文法が制限されていて、読
みやすく書かれています。漢字には全てひらがなが付いていますか
ら、辞書を引かないでどんどん読んでみましょう。

レベル クラス 語彙数 文字数/1話

1 初級前半 350 400~1500

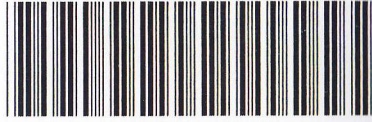
2 初級後半 500 1500~2500

3 初中級 800 2500~5000

4 中級 1300 5000~10000

にほんご よむよむ文庫 レベル 1

Knihovna FF MU Brno



2570808900

うらしま たろう
浦島太郎

再話(さいわ) : 粟野 真紀子 (あわの まきこ)
挿絵(さしえ) : 山中 桃子 (やまなか ももこ)
監修(かんしゅう) : NPO法人日本語多読研究会(にほんご たどく けんきゅうかい)

日本語を勉強しているみなさんへ

「にほんごよむよむ文庫」は、

日本語を勉強しているみなさんのための「読みものシリーズ」です。

楽しみながらたくさん読んでください。

やさしいものからたくさん読むと、知らないうちに漢字の読み方や言葉が身につきます。

読んだ話をCDでも聴いてみてください。読みながら聴いてもいいですよ。

目からも耳からもどんどん日本語を吸収しましょう！

「にほんごよむよむ文庫」4つのルール

- 1 やさしいレベルから読む。
- 2 辞書を引かないで読む。
- 3 わからないところは飛ばして読む。
- 4 進まなくなったら、他の本を読む。

Masarykova univerzita Filozofická fakulta, Ústřední knihovna	
Přítč.	15-8900-08
Sign.	
Syst.č.	56 29 26

「浦島太郎」は、日本の古い話です。

ここは、海の近くです。

太郎とお母さんのうちがあります。

太郎は、毎日、海へ行きます。

そして、魚をとります。





子どもたちは、棒で亀をたたきます。
 「痛い！ 痛い！」
 亀は泣きました。
 太郎は、子どもたちに言いました。
 「お金をあげましょう。」
 私に、この亀をください
 「本当？ いいよ」
 子どもたちは、亀を太郎にあげました。



今日も、太郎は海へ行きました。
 海に、子どもがたくさんいます。
 子どもたちが、
 棒で何かをたたきました。
 亀です。



「どうもありがとうございます」
亀は言いました。
そして、海に帰りました。



それから一週間。

太郎は、今日も海へ行きます。

いい天気です。

太郎は、今日も魚をとります。

そこに亀が来ました。

亀が言いました。

「あのときは、どうもありがとうございます

ました。海の中に楽しいところが

あります。私と一緒に行きましょう。

さあ、どうぞ」

太郎は、亀に乘りました。

かめ うみ なか はい
亀は海の中に入りました。

きれいな魚がたくさんいます。
さかな

「うわあ、海の中はきれいだなあ」
うみ なか



亀と太郎は、大きい城の前に来ました。

「ここは竜宮城ですよ」

亀が言いました。

竜宮城はとてもきれいです。

太郎は、

亀と一緒に竜宮城の中へ

入りました。

そこには、

とてもきれいな女の人がありました。

太郎は、亀に聞きました。

「あのきれいな女の方は、誰ですか」

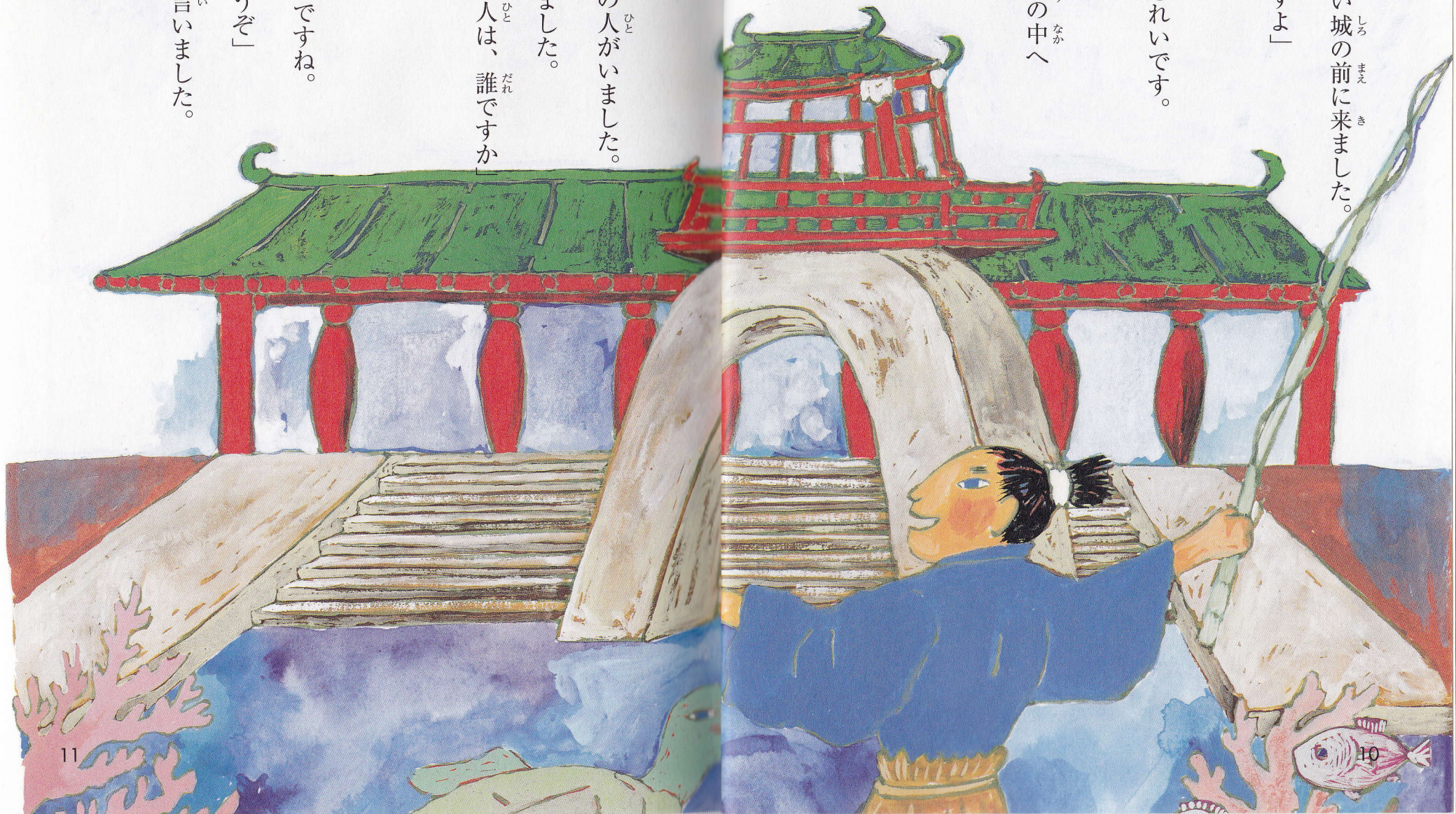
「乙姫さまですよ」

亀は答えました。

「あなたが太郎さんですね。」

「さあ、こちらへどうぞ」

乙姫さまは太郎に言いました。





竜宮城には、おいしい食べ物やお酒がたくさんあります。

太郎は、毎日、乙姫さまと遊びました。

そして、おいしい食べ物をたくさん食べました。

おいしいお酒もたくさん飲みました。

毎日、とても楽しいです。

一週間、二週間……、一か月、二か月……、一年、二年……。



ある日、乙姫さまが言いました。

「太郎さん、元気がありませんね。」

あまり食べませんね。どうしましたか」

太郎は言いました。

「乙姫さま、私は、もう、

うちへ帰ります」

「えっ、どうしてですか」

乙姫さまは言いました。

「うちに、母が一人ですから」

太郎は言いました。

「そうですか。わかりました……。

じゃあ、これをどうぞ」

乙姫さまは、

太郎に箱をあげました。

それは、とてもきれいな箱でした。

「ありがとうございます」

太郎は箱をもらいました。

「乙姫さま、ありがとうございました。さようなら」
「さようなら」

太郎は亀に乘りました。



太郎のうちの近くです。

太郎は亀から降りました。

そして、言いました。

「亀さん、どうもありがとう。」

さようなら」

「さようなら」

亀は竜宮城に帰りました。



太郎は、うちの方へ行きました。

でも、うちがありません。

「あれ？ 私うちがありません」

太郎は、近くの人に聞きました。

「私のうちがありません。私の母もいません。私のうちはどこですか。」

母はどこですか」

その人は言いました。

「わかりません。百年前、ここにうちがありました。でも、今はありません」

太郎は言いました。

「えっ、百年前？ ……私は百年も竜宮城に ……？」



太郎には、もう、うちがありません。お母さんもいません。
太郎には、もう、何もありません……。

あつ、あります。一つだけあります。箱があります。

あのきれいな箱です。乙姫さまからもらいました。

——箱の中は何でしょう？——

太郎は箱を開けました。

「わーっ！」

煙です。

中から白い煙が出ました。



太郎は、もう、若くありません。白い髪のおじいさんです。

うらしま たろう
浦島太郎

もんぶしょうしゅうか
文部省唱歌



むかしむかし うらしまは
 たすけたかめに つれられて
 りゅうぐうじょうへ 来てみれば
 えにもかけない うつくしさ

1 むかしむかし 浦島は
 助けた亀に 連れられて
 竜宮城へ 来てみれば
 絵にもかけない 美しさ

2 乙姫様の ごちそうに
 鯛や比目魚の 舞踊
 ただ珍しく おもしろく
 月日の経つも 夢のうち

3 遊びにあきて 気がついて
 お暇乞も そこそこに
 帰る途中の 楽しみは
 土産にもらった 玉手箱

4 帰ってみれば こは如何に
 元居た家も 村もなく
 路に行きあう 人々は
 顔も知らない 者ばかり

5 心細さに 蓋とれば
 あけて悔しき 玉手箱
 中からぱっと 白煙
 たちまち太郎は お爺さん

それから、太郎はどこへ行きましたか。
 それは、だれもわかりません。



にほんご よむよむ文庫

これは、日本語学習者のための「読みもの」シリーズです。
学習者がレベルに応じて、楽にたくさん読めるように、語彙や文法が制限してあります。

- 初級から中級まで4レベルあり、昔話、創作、名作、伝記など内容もさまざまです。楽しく読んでもらうために、カラーの挿絵が豊富に使われています。
- 漢字には全部ふりがなが付いています。たくさん読むうちに、自然に漢字の読み方や言葉が身につくでしょう。レベル3まではカタカナにもふりがなが付いています。
- 例外的に制限語彙以外の言葉が使われている部分もありますが、その場合は文中で説明したり、挿絵を付けるなどして、理解できるよう工夫されています。
- 朗読CDを聴きながら読んだり、読んだ後で、朗読だけ聴いて楽しむこともできます。また、シャドーイングをして発音やリスニングの力をつけることもできるでしょう。

レベル	能力試験	語彙	字数／1話	主な文法項目
1 初級前半	4級	350	400 ～1500	現在形、過去形、疑問詞、～たい など ※「です・ます体」だけを使っています。
2 初級後半		500	1500 ～2500	辞書形、て形、ない形、た形、 連体修飾、～と(条件)、～から(理由)、 ～なる、～のだ など
3 初中級	3級	800	2500 ～5000	可能形、命令形、受身形、意向形、～とき、 ～たら・ば・なら、～そう(様態)、 ～よう(推量・比喩)、複合動詞 など
4 中級	2級	1300	5000 ～10000	使役形、使役受身形、～そう(伝聞)、～らしい、 ～はず、～もの、～ようにする／なる、 ～ことにする／なる など

※語彙は、『日本語能力試験出題基準【改訂版】(国際交流基金・財団法人日本国際教育協会編、凡人社、2002年)の級別語彙表を参考に、文法項目は、市販されている主な初級テキストの文法シラバスを参考にレベル分けしています。
※本書の試作版は、大阪教育大学、JET日本語学校などの日本語学習者に実際に読んでもらい、フィードバックをいただきました。

テキスト名
 『みんなの日本語初級Ⅰ・Ⅱ』 スリーエーネットワーク編著 スリーエーネットワーク
 『新文化初級日本語Ⅰ・Ⅱ』 文化外国語専門学校編著 文化外国語専門学校
 『JAPANESE FOR BUSY PEOPLE Ⅰ～Ⅲ』 国際日本語普及協会編著 講談社インターナショナル
 『Situational Functional Japanese Ⅰ～Ⅲ』 筑波ランゲージグループ著 凡人社
 『初級日本語 げんきⅠ・Ⅱ』 坂野永理、大野裕 ほか著 ジャパンタイムズ

<監修者紹介>

NPO法人 日本語多読研究会 (にほんご たどく けんきゅうかい)

当研究会は、学習者のための「読みもの」を作ることを目的に、日本語教師が集まって、2002年1月に発足しました。2006年9月にNPO法人になりました。「レベル別読みもの」を開発したり、それらを使った「多読」授業の実践・研究をしたりしています。http://www.nihongo-yomu.jp

レベル別日本語多読ライブラリー (にほんご よむよむ文庫)

[レベル1] vol.1

浦島太郎

2006年10月10日 初版 第1刷 発行
2008年 2月29日 初版 第2刷 発行

再話：栗野 真紀子 (日本語多読研究会会員・日本語教師)
作画：山中 桃子
監修：NPO法人 日本語多読研究会

ナレーション：山中 いっとく
録音・編集：スタジオ グラッド
デザイン・DTP：有限会社トライアングル

発行人：天谷 修平
発行：株式会社アスク出版
〒162-8558 東京都新宿区下宮比町2-6
TEL.03-3267-6864 http://www.ask-digital.co.jp

印刷・製本：株式会社光邦

許可なしに転載・複製することを禁じます。
乱丁・落丁はお取り替えいたします。
© NPO法人 日本語多読研究会 2006
Printed in Japan ISBN978-4-87217-624-7